



一中だより

浜田市立第一中学校 学校だより第11号
令和7年3月19日(水)

〒697-0024 浜田市黒川町3745
TEL 0855-22-0946
FAX 0855-22-0947
E-mail dail@hamada.ed.jp



「119名の旅立ち」

校長 川田 英樹

冬を耐えた木々の芽も膨らみ、春の訪れを実感するころとなりました。3月9日、第78回卒業証書授与式を行いました。卒業生は、小学校5年生から中1までの3年間は、様々なかかわりが制限されるコロナ禍でした。その代償はとて大きく、そのかわりの空白を必死で埋めようと努力してくれました。その先頭に立ったのが、生徒会の皆さんです。今年も「学年の壁をなくす」を合言葉に生徒集会を行い、全校が大いに盛り上がりました。何事も全力で一生懸命することが「かっこいい」ということを証明してくれた生徒会のみなさん、そして、それを支えてくれた全校生徒の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。



答辞の中で、「Chessboard」を卒業生全員で合唱しました。またの再会を信じて、自分自身で進むべき道を決めて、巣立っていきました。今までの成長を見守っていただいた保護者の皆様、地域の皆様にご心より感謝申し上げます。今後も地域での見守りをよろしくお願いします。



～卒業式式辞より (抜粋)～

皆さんは、中村 哲さんという名前を聞いたことがありますか。1984年にパキスタンに、1991年からはアフガニスタンに医師として赴任し、戦争で荒れ果てた町に診療所を開き、献身的に医療活動に従事された人です。アフガニスタンはかつて、実り多い農業国でした。しかし、長引く戦乱に加え、干ばつによる水不足と農地の砂漠化が進み、子どもたちが飢えと渇きの犠牲者となりました。中村さんは、もはや病気の治療どころではない、「農村の回復無くしてアフガニスタンの再生なし」と痛感されます。そして、安心して飲める水を提供するために砂漠に自ら井戸を掘り、さらに26kmに及ぶ用水路を作りました。その結果、現地の人々の協力も得て、30年間の活動を通して、荒れ果てた農地、もともと砂漠だった場所は、緑に生まれ変わります。

中村さんの座右の銘は「一隅を照らす」だったそうです。「一隅」とは「片隅」のこと、目立たない場所、与えられた場所です。「照らす」とは光をあてて、明るくすることです。その言葉通り、中村さんはアフガニスタンで出会った人々の困窮した惨状にふれ、現地の人々に光をあて、荒廃した生活環境を改善し、現地の人々に生きる勇気を与えました。しかし、2019年12月4日、アフガニスタンで移動途中、凶弾に倒れ73歳で亡くなりました。

中村さんは、「例え片隅であっても、それぞれの立場で誠実に精いっぱい努力することで、その場所に小さな光が灯される。やがて、あちこちの小さな光が集まり大きな光となって、地域や社会を照らすことができる。」と話されていました。

これから旅立ちを迎える119名の皆さん、これから多くの試練が待ち受けていることでしょう。心が折れそうになったとき、目標を見失ったとき、他者のために生きた中村 哲さんの「一隅を照らす」という言葉を思い出してください。そして、「自分が今いる場所で自分ができることを一生懸命にやり通す」人であってほしいと願っています。



それでは、浜田一中でともに生活できる楽しさを感じ、他者に貢献できる喜びを知った卒業生の皆さん、浜田一中での学びの誇りを胸に、未来を切り拓いていってください。

令和7年度に向けて ～各分掌から～

総務部

来年度から「コミュニティ・スクール」が始まります。「学校運営協議会」という学校と地域や保護者が話し合う場を設けた学校のことをコミュニティ・スクールと言います。これまでも校外生活における学校・家庭・地域の役割についてお願いをしています。「地域の子どもたち」という視点で教育目標を共有し、学校評価でいただいた意見を参考にしながら、子ども達が成長できる環境を整えていきたいと考えています。（品川）

教務部

今年度は、はじめてのブロック大会、石見地区新人戦の廃止などの影響で、体育祭や修学旅行の時期などが大きく変更となりました。しかし、来年度はこのような大きな変更はないため、ほぼ今年度と同様の日程となる予定です。授業では、1年体育、全学年の美術を中心にチームティーチング、2年生数学は少人数指導を実施してきました。来年度も教員の配置により、教科や時間数は変更となりますが、できるかぎりきめ細かな指導となるように、教科・時間数を検討して実施いたします。（中田）

研究部

今年度より家庭学習の取組を見直し、目標時間（1年生80分、2年生90分、3年生100分）を目指して各教科から出された宿題を中心に取り組むようにしましたが、実際に時間を達成した生徒は残念ながら目標値（50%）以下でした。次年度も十分な宿題量を確保するとともに、より効果的な家庭学習の指導方法について現在研究部で検討しています。保護者の皆様の家庭学習へのご協力をよろしく願います。（小林）

生徒指導部

今年度は、「安心して自分の思いを表現できる集団づくり」の一環として、定期的に学年朝礼を開催しました。また、生徒たちの普段言葉に出せない気持ちや悩みに気づき、迅速に対応できるように、生活アンケートを毎月行うといった取り組みを行いました。今後も安心・安全に学校生活を送り、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加できるような集団づくりに主眼を置き、いじめや生徒指導上の諸問題の未然防止や早期発見に繋げていきたいと考えています。（段）

事務部

学校教育目標の達成に向け、財務をとおした支援を行っています。生徒が、安心して、安全に、充実した学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備を図っています。そのために、夏季休業中の備品点検や保管場所の整備を継続し、「わかる喜び」や「学ぶ楽しさ」のある授業への一助となるよう、教材備品の購入や有効活用を進めています。

担任や教科担当と協働し、一人ひとりの学びの保障を意識した取り組みをめざしていきます。（宮本）

生徒指導懇話会

一中では年に2回、校区の民生児童委員、主任児童委員の皆様に参加していただき、「生徒指導懇話会」を開催しています。2月の懇話会では、「一中の良いところ探し（ひと・もの・こと）」を5人程度のグループになっていただき、一中の強み・弱みを挙げながら意見交換をしていただきました。地域から一中がどのように見えているのか学校側も知ることができ、今後の学校運営に生かしていきたいと思えます。グループでまとめていただいた意見は校内に掲示し、生徒も見られるようになってきました。地域の方が一中生をあたたかな目で見守っていることが伝わっていると思えます。

（教頭 品川）

